

計画対象年度	平成29年度		事務事業評価シート									
事務事業名	図書館運営事業（政策）							事業類型	管理・運営			
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	図書館法 かすみがうら市立図書館条例			
			10	04	04	03	政策経費					
総合計画体系	6. 豊かな学びと創造のまちづくり							総合計画対象	対象			
	(2) 生涯学習の充実							市民協働	行政主体			
	1 生涯学習							担当課係等	図書館			
	③生涯学習施設の整備充実								図書館			
事業期間	継続（平成27年度～）											

現状把握の部（D0）

【目的】		【関連事業】
図書館を利用する幅広い年齢層の住民に対し、生涯学習の中核施設として資料や情報の提供を行い、円滑に図書館を利用できるようにする。		蔵書整備事業
【期待される効果】		【対象者】
市民が読書等を通して心豊かな生活をおくることができる。		市民および近隣住民
【全体概要】		【特記事項】
図書館を利用する幅広い年齢層の住民に対し、資料や情報の提供を行い、安心して利用できる環境を整備し、図書館サービスの充実を図りながら、図書資料の受入れ、貸出、各種団体活動の推進を図る。		千代田公民館（図書館分館）と連携を密に事業を実施している。 週２回、本館と分館との図書の受領やり取りを実施している。
【平成28年度 事業内容】	【平成29年度 事業内容】	【平成30年度 事業内容】
図書の貸出、図書検索情報提供、各種ボランティア団体の活動支援、図書館協議会、朗読ボランティア育成講座、読書週間記念作品募集及び表彰、夏休み一日図書館員体験講座	図書の貸出、図書検索情報提供、各種ボランティア団体の活動支援、図書館協議会、朗読ボランティア育成講座、読書週間記念作品募集及び表彰、夏休み一日図書館員体験講座	図書の貸出、図書検索情報提供、図書館協議会、朗読ボランティア育成講座、読書週間記念作品募集及び表彰、夏休み一日図書館員体験講座また、３０年度は開館２０周年記念行事と記念誌の発刊する。

■事業費

		H28年度		H29年度		H30年度	
財源	国庫支出金	0		0		0	
	県支出金	0		0		0	
	自主財源	5,034		5,124		6,306	
	歳入計（千円）	5,034		5,124		6,306	
歳出内訳	節（番号＋名称）	金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
	04 共済費	0		0		231	
	07 賃金	4,734		4,821		5,482	
	08 報償費	213		213		214	
	11 需用費	27		30		318	
	12 役務費	15		15		16	
	19 負担金、補助及び交付金	45		45		45	
歳出計（千円）（A）		5,034		5,124		6,306	
（参考）		当初予算額	5,159	当初予算額	5,451	伸び率(%)	決 23.06 予 15.68
職員人工数		0.85		0.85		0.85	
職員人件費（B）		6,688		6,548		6,636	
総事業費（A）＋（B）		11,722		11,672		12,942	

■指標

種類	指 標 名	単 位		H28年度	H29年度	H30年度
活動 指標	図書蔵書数（本館・分館込）	冊	目標	135,000.00	136,000.00	136,000.00
	ただ増やすだけでなく、不要図書リサイクルにも取り組み、借りやすい適正な蔵書数を目指す。		実績	136,235.00	136,567.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	図書等貸出し冊数（本館・分館含）	冊	目標	90,000.00	90,000.00	91,000.00
			実績	91,920.00	85,381.00	0.00
	図書館入館者数（本館のみ）		目標	60,000.00	60,000.00	60,000.00
			実績	58,798.00	54,408.00	0.00

評価の部（SEE）

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。	■結びついている 【理由】 総合計画による。 ☐ 見直す余地がある
	②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。	■妥当である 【理由】 多くの市民が心豊かに生活していくためには必要。 ☐ 見直す余地がある
有効性 評価	③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上まらない理由はあるか。	☐ 余地がない 【理由】 貸出し冊数が減少傾向（電子書籍等の影響が考えられる。）にあり、将来的には小中学校の学校図書館との連携が必要。 ■見直す余地がある
	④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。	■影響がある 【理由】 代わるものがない。 ☐ 影響がない
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。	■統廃合・連携ができない 【理由】 統廃合はできない。類似事業はない。 ☐ 統廃合・連携ができる
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 （仕様や工法の適正化、市民の協力など）	■事業費の削減余地がない ■人件費の削減余地がない 【理由】 正職員が最少人数（館長他1名）であるため、臨時職員による貸出し業務、レファレンス業務、蔵書点検業務等、かなりのウェイトを担っている。また、読み聞かせ等はボランティアが担っており、人件費削減の余地はない。 ☐ 事業費の削減余地がある ☐ 人件費の削減余地がある
公平性 評価	⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。	■公平・公正である 【理由】 全市民を対象としている。 ☐ 見直す余地がある

今後の改善方策や方向性

改善 方策・ 方向性	上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入	平成31年度からの図書館システム更新に合わせ、更なる活用方法を目指す。
1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） ☐ 終了 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 統廃合 ■継続（ ☐ 見直し ■現状維持） 記入者： 仲澤 勤		
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 新図書館システム（自動貸出機）の利用促進し、貸出業務の簡素化を進めることで短縮時間をレファレンスサービス業務に充てる。		
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） ☐ 終了 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 統廃合 ■継続（ ☐ 見直し ■現状維持） 記入者： 辻和徳		
担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 誰もが利用しやすい図書サービスの向上に努める。		

計画対象年度	平成29年度		事務事業評価シート									
事務事業名	蔵書整備事業（政策）							事業類型	管理・運営			
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	図書館法 かすみがうら市図書館条例			
			10	04	04	05	政策経費					
総合計画体系	6. 豊かな学びと創造のまちづくり							総合計画対象	対象			
	(2) 生涯学習の充実							市民協働	行政主体			
	1 生涯学習							担当課係等	図書館			
	③生涯学習施設の整備充実								図書館			
事業期間	継続（平成27年度～ ）											

現状把握の部（D0）

【目的】		【関連事業】	
図書館を利用する幅広い年齢層の住民に対し、生涯学習の中核施設として資料や情報の提供を行い、円滑に図書館を利用できるようにする。		図書館運営事業	
【期待される効果】		【対象者】	
市民が読書等を通して心豊かな生活をおくることができる。		市民および近隣住民	
【全体概要】		【特記事項】	
市民の知る権利を充たし、地域及び住民ニーズに応じた情報提供を行うため、図書館本館及び分館に優良な図書・雑誌及び視聴覚資料を年次的に整備していくとともに、予約・検索システムを活用し利用者の利便性を図る。			
【平成28年度 事業内容】	【平成29年度 事業内容】	【平成30年度 事業内容】	
・ 図書・視聴覚資料の購入 ・ 蔵書点検作業 ・ 不要図書の除籍、リサイクル	・ 図書・視聴覚資料の購入 ・ 蔵書点検作業 ・ 不要図書の除籍、リサイクル	・ 図書・視聴覚資料の購入 ・ 蔵書点検作業 ・ 不要図書の除籍・リサイクル	

■事業費

		H28年度		H29年度		H30年度	
財源	国庫支出金	0		0		0	
	県支出金	0		0		0	
	自主財源	5,460		5,420		5,795	
	歳入計（千円）	5,460		5,420		5,795	
歳出内訳	節（番号＋名称）	金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
	18 備品購入費	5,460		5,420		5,795	
歳出計（千円）（A）		5,460		5,420		5,795	
（参考）		当初予算額	5,462	当初予算額	5,462	伸び率(%)	決 6.91 予 6.09
職員人工数		1.05		1.05		1.05	
職員人件費（B）		8,262		8,089		8,198	
総事業費（A）＋（B）		13,722		13,509		13,993	

■指標

種類	指 標 名	単 位		H28年度	H29年度	H30年度
活動 指標	図書蔵書数（本館・分館込）	冊	目標	135,000.00	136,000.00	136,000.00
	ただ増やすだけでなく、不要図書リサイクルにも取り組み、借りやすい蔵書数を目指す。		実績	136,235.00	136,567.00	0.00
	図書整理回数（本館、分館）		目標	18.00	18.00	18.00
	利用者が借りやすい図書館を目指し、本館月1回に加え、27年度から分館でも2か月に1回実施。		実績	18.00	18.00	0.00
成果 指標	図書貸出冊数（本館、分館）	冊	目標	90,000.00	90,000.00	91,000.00
	年間の図書・視聴覚資料貸出冊数		実績	91,920.00	85,381.00	0.00
	不要図書のリサイクル冊数（本館、分館）		目標	2,000.00	3,000.00	3,000.00
	生涯学習フェアの際に希望者に不要図書を配布。		実績	2,229.00	3,578.00	0.00

評価の部（SEE）

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。	■結びついている 【理由】 総合計画による。 □見直す余地がある
	②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。	■妥当である 【理由】 多くの市民が心豊かに生活していくためには必要。 □見直す余地がある
有効性 評価	③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上まらない理由はあるか。	□余地がない 【理由】 貸出し冊数が減少傾向（電子書籍等の影響が考えられる。）にあり、将来的には小中学校の学校図書館との連携が必要。 ■見直す余地がある
	④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。	■影響がある 【理由】 代わるものがない。 □影響がない
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。	■統廃合・連携ができない 【理由】 統廃合はできない。類似事業はない。 □統廃合・連携ができる
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 （仕様や工法の適正化、市民の協力など）	■事業費の削減余地がない □人件費の削減余地がない 【理由】 事業費の削減は、図書購入に大きく影響するため、事業費の削減余地はない。 □事業費の削減余地がある □人件費の削減余地がある
公平性 評価	⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。	■公平・公正である 【理由】 全市民を対象としている。 □見直す余地がある

今後の改善方策や方向性

改善 方策・ 方向性	上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入	限られた図書購入費で、回転率の高い図書購入を心掛ける。
1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） □終了 □廃止 □休止 □統廃合 ■継続（□見直し ■現状維持） 記入者： 仲澤 勤		
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 利用者の意見、要望を積極的に取り入れ、稼働率の高い図書購入を心掛ける。また、借りやすい図書館にするために不要図書のリサイクル、処分を定期的 to 実施すること。		
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） □終了 □廃止 □休止 □統廃合 ■継続（□見直し ■現状維持） 記入者： 辻和徳		
担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 利用者の意見、要望を積極的に取り入れ、稼働率の高い図書購入を心掛ける。また、借りやすい図書館にするために不要図書のリサイクル、処分を定期的 to 実施すること。		

計画対象年度	平成29年度		事務事業評価シート									
事務事業名	ブックスタート事業（政策）							事業類型	広報・啓発			
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	なし			
			10	04	04	07	政策経費					
総合計画体系	5. 未来を担う若者を育むまちづくり							総合計画対象	対象			
	(1) 次世代の育成支援							市民協働	行政主体			
	1 児童福祉							担当課係等	図書館			
	①教育・保育サービスの充実								図書館			
事業期間	継続（平成27年度～）											

現状把握の部（D0）		
【目的】		【関連事業】
子育て支援の一環として、生後4ヶ月児及びその保護者を対象に、赤ちゃん絵本を介して心のきっかけづくりをする。		母子保健事業
【期待される効果】		【対象者】
子育て支援と新しい図書館ファンの開拓		市内在住4ヶ月児の保護者
【全体概要】		【特記事項】
子育て支援の一環として、生後4ヶ月児健診時に赤ちゃんと保護者に対し、絵本を介して心のきっかけづくりを行い、ボランティア団体の協力を得て、本を読むことの大切さを説明し、絵本やアドバイス集をバックにして手渡す。		保健センターの日程に併せて、事業を展開している。無償ボランティアのサポートが重要である。
【平成28年度 事業内容】	【平成29年度 事業内容】	【平成30年度 事業内容】
絵本、イラスト・アドバイス集、バックの配布	絵本、イラスト・アドバイス集、バックの配布	絵本、イラスト・アドバイス集、バックの配布

■事業費

		H28年度		H29年度		H30年度	
財源	国庫支出金	0		0		0	
	県支出金	0		0		0	
	自主財源	341		337		374	
	歳入計（千円）	341		337		374	
歳出内訳	節（番号＋名称）	金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
	11 需用費	341		337		374	
歳出計（千円）（A）		341		337		374	
（参考）		当初予算額	342	当初予算額	342	伸び率(%)	決10.97予9.35
職員人工数		0.20		0.20		0.20	
職員人件費（B）		1,574		1,541		1,562	
総事業費（A）＋（B）		1,915		1,878		1,936	

■指標

種類	指 標 名	単 位		H28年度	H29年度	H30年度
活動 指標	ブックスタート実施回数	回	目標	12.00	12.00	12.00
	年間のブックスタート実施回数		実績	12.00	12.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	ブックスタートパック受取人数	人	目標	330.00	0.00	0.00
	※配布先は4か月検診親子であり、ブックスタートパックを受け取るのを主にしていないのではないので、29年度から指標を下に変更。		実績	276.00	0.00	0.00
	4か月検診参加親子でブックスタートパックを受け取った割合	%	目標	0.00	100.00	100.00
	29年度-231組		実績	100.00	100.00	0.00

評価の部（SEE）

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。	■結びついている 【理由】 総合計画による。 ☐ 見直す余地がある
	②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。	■妥当である 【理由】 子育て支援の一環として、また図書と親しむきっかけ作りとして、市が実施すべき事業である。 ☐ 見直す余地がある
有効性 評価	③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上らない理由はあるか。	■余地がない 【理由】 対象者が限定されているため。 ☐ 見直す余地がある
	④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。	■影響がある 【理由】 赤ちゃんに対しての事業であるため、本とのふれあいの時期を逃してしまう。 ☐ 影響がない
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。	☐ 統廃合・連携ができない 【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 （仕様や工法の適正化、市民の協力など）	■事業費の削減余地がない ☐ 人件費の削減余地がない 【理由】 現在も必要以上のコストはかかっておらず、削減の余地はない。 ☐ 事業費の削減余地がある ☐ 人件費の削減余地がある
公平性 評価	⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。	■公平・公正である 【理由】 対象者は、4か月検診児童及び保護者全員であるため。 ☐ 見直す余地がある

今後の改善方策や方向性

改善 方策 ・ 方向 性	上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入	ボランティア（千代田地区一公募ボランティア、霞ヶ浦地区一民生委員）が丁寧に絵本を手渡しすることで、参加者の高い満足度を維持するとともに、参加率向上のために、事業のPRを継続していく必要がある。また、子育て支援の一環として、子ども未来室との連携が重要である。
1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） ☐ 終了 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 統廃合 ☒ 継続（ ☐ 見直し ☒ 現状維持） 記入者： 仲澤 勤		
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 新しい図書館ファン開拓の目的からも継続実施する。参加率が例年90%前後であることから対象者全員参加を目指し、保健センターや読み聞かせボランティアとの連携を強化すること。		
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） ☐ 終了 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 統廃合 ☐ 継続（ ☐ 見直し ☐ 現状維持） 記入者：		
担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 読み聞かせボランティアの養成に努めるとともに、参加率の向上を目指す。		